



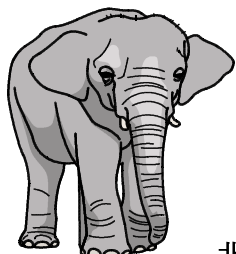
# 小田小だより

平成26年11月号

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西1丁目69番1号 TEL 045(775)3011

<http://www-local.edu.city.yokohama.jp/sch/es/koda/>

横浜市立小田小学校



## 「ぞうのさんすう」 ～深まりゆく秋に思いを寄せて～

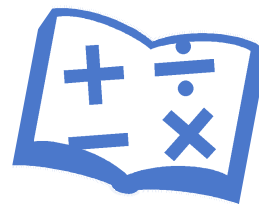
学校長 木村 昭雄

秋の深まりを日一日とを感じる気持ちのよい季節となりました。桜前線が少しずつ北上していったように、紅葉前線、初霜、初雪の南下の便りが届き始めます。

デジタル化と周囲の大きな変化に振り回されている子どもたちに、澄んだ秋空、爽やかな秋風、錦秋、作物の収穫、行く秋の風情等々、自然の営みや季節の移ろいに対する日本人がもっている細やかさに目を向けさせたいものです。あわせて、素敵な本との出会いも演出してあげたいものです。

そこで、『ぞうのさんすう』（ヘルメ・ハイネ作 いたうひろし訳 あすなろ書房）という絵本を紹介したいと思います。10年以上も前に話題になった絵本で、四・五歳の子どもたちに読んで聞かせると大喜びする本です。しかし、大人が読むと、とても悲しくなります。みなさんはどのような感想をおもちになるのでしょうか。終わりの方を少しだけご紹介しましょう。

「はじめの50年のあいだに 465,375このうんちを しました。  
のこりの50年のあいだに 465,375このうんちを しました。  
さしひきゼロです。ぴったりゼロ。  
ぞうはしあわせでした。  
100年 いきてみて、やっと ゼロというものが わかりました。」



中学時代の数学の先生が、「0」について熱く話をしていたのを思い出します。

0は1、2、3・・・という自然数よりずっと後の7世紀にインドで発見されました。それ以前は、「ないものは数えられない。だから書き表す必要もない」と思われていました。しかし、ある人が最小の自然数より一つだけ小さい数で、そこに何も無いことを表す概念に対して「0」という数字を与えたのです。「無い」「存在しない」ということを、「0」が「ある」に置き換えたのです・・・。そんな内容のお話でした。

つまり、・・・一匹のぞうが生まれ、そして、いなくなりました。いなくなっても、存在しているのです。ぞうが知った「0の意味」です。数学者は、「存在しないものを存在させる」ことで、数の世界を拡張してきました。一方、この絵本の作者のように文学者は、「言葉にできない思いを言葉で表す」ことに心血を注いできました。数学と文学は相容れない世界のように思われていますが、どこか似ていると思いませんか。「無い」ものを「ある」ものにする世界『ぞうさんのさんすう』に出会い、私はそのようなことを考えました。

子どもたちはまだほんの少ししか生きていません。この絵本のぞうならば、たくさんの草を食べ、たくさんの水を飲み、うんちの数がどんどん増えていく年です。まだまだ、大きく成長する時です。そのため大切な栄養素の一つが、読書だと思えます。多くの本との出会いは、子どもたちの世界を拡張します。言葉にならないたくさんの思いを代弁してくれます。

「本と旅する 本を旅する」昨年度の読書週間の標語です。10月27日から第68回読書週間が始まります。本年度の標語は「めくる めぐる 本の世界」です。本を手にしてページをめくるときのわくわくした気持ちは子どもも大人も変わりません。この秋、どうかたくさんのすてきな本との出会いがありますように・・・。ページをめくって、いつでもどこでも自由にめぐることのできる本の世界を旅するすてきな秋となりますように・・・。